

## 平成30年度末自己評価の分析と具体的な改善に向けて

◇成果の見られた事項（3.2ポイント以上＝青色）については、本校の強み、本校のPRポイントとしてとらえることができる。

◇課題・問題点については（2.6ポイント以下＝黄色）、改善の優先順位を決め（短期的視点・中期的視点・長期的視点から）、具体的な改善策を出していく必要がある。

◇全体のまとめ

### （1）集計結果の見方

①「H30期末」が評価の平均値です。

　　そう思う＝4　大体そう思う＝3　あまりそう思わない＝2　思わない＝1  
　　で算出しています。参考に今年度中間、昨年度末の同項目の平均値を示しています。

②今年度は、生徒指導の6、進路指導の1～4、SSH・理数科の1～6項目が新規になります。他の項目では昨年度の数値との比較が可能となっています。

③数値は絶対なものではありませんが、その変化の傾向をしっかりと把握、分析し、課題を明確にし、具体的な改善につなげることが重要です。

### （2）今回の集計結果の傾向

全体の評価平均は、昨年度から0.1ポイント下がっています。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
☆ 中間自己評価	3.0	3.0	3.1	3.1	3.1
☆ 年度末自己評価	2.9	3.0	3.1	3.2	3.1

平成29年度の評価と比べて

- ┌ 「3.2以上」の強みの項目数が、14項目と前年度末23項目に比べかなり減りました。
- └ 「2.6以下」の弱みの項目は、昨年度も、今年度もありませんでした。
- └ 0.3ポイント以上の大きな変化は、＋－ともにありませんでした。

## 1 教育計画・組織運営

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
☆ 中間自己評価	2.8	3.0	3.0	2.9	3.0
☆ 年度末自己評価	2.9	2.8	2.9	3.0	3.0

### （1）分析結果

ア 学校教育目標の適切さ（表省略）

イ 信頼される学校づくりの推進

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
☆ 中間自己評価	3.1	3.1	3.2	3.1	3.2
☆ 年度末自己評価	3.2	3.0	3.1	3.2	3.3

ア・イともに比較的高い評価となっています。特に今年度は、校内研修においてあらためて学校目標をもとに「どのような生徒を育てていかなければならないか」など考える機会、本校や本校生徒の将来について話し合う機会を持つことができました。信頼される学校づくりについては、昨年度よりポイントを上げています。

学習指導や進路実績のみならず、生徒の指導や保護者へ対応等、より細やかさが求められていることを意識し、実践している表れと考えます。その他、今年度全道的に問題となった部活動に係る私費会計の取扱等も含め、職員個々、学校として積み上げてきた信頼を損なうことのない取組が今後も必要である。

#### ウ 教職員の働き方・福利厚生等の適正さ

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
☆ 中間自己評価	2.7	2.8	2.9	2.7	2.7
☆ 年度末自己評価	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7

→ 週休日の振替や勤務時間の割り振りの変更について、制度を正しく運用することと合わせ、取り扱う職員の業務は膨大になり、苦勞している状況にあります。

該当する規則については

##### 【週休日の振替】

- ・週休日の振替については、前4週、後8週での振替【道立学校管理規則に基づく北海道人事委員会規則 13-43・振替期間の特例】
- ・どうしても振替が困難であり、かつ、学校運営上特に必要と認める場合に限り直近の長期休業期間に変更できる。
- ・さらに冬季休業期間で対応しきれず、(学校運営上特に必要と認める場合に限り)学年末始休業期間とする。

##### 【勤務時間の割振変更】

- ・修学旅行の引率業務等に従事する場合、勤務時間の割り振りを行う【道立学校管理規則に基づく道立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領】
- ・当該4週の期間の初日から起算して7日前までに勤務時間一覧表を明示すること。(=勤務の割り振り変更予定を作成すること)

職員室内では副校長・教頭がこのとりまとめをし、全職員分の書類は事務で作成し、道教委に提出しています。また事務では変更の都度、資料を作り直して、再提出をしている状況にあります。これに加え、勤務の割振り変更等、特殊勤務手当、部活動手当等、複数の関連する業務が重なっていることをご理解ください。

お互いの働き方に大きく影響を与えないよう、お互いに業務の計画的な遂行を心がけてください。例えば、あとから出張等が入り、予定を変更した場合もありますので、変更については相談してください。

## 2 総務部

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
☆ 中間自己評価	3.1	3.2	3.2	3.3	3.3
☆ 年度末自己評価	3.2	3.2	3.1	3.3	3.3

### (1) 分析結果

ア ホームページに係る項目を除き、評価 3.2 以上と高い評価であり、本校の強みとなっています。

### イ PTA活動の活性化と保護者との連携

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
☆ 中間自己評価	3.2	3.2	3.2	3.2	3.3
☆ 年度末自己評価	3.2	3.2	3.0	3.3	3.4

→ 過去5年で最も高い評価となりました。役員会や各委員会の活動等、総務はもちろん、祭典巡視や学年茶話会など、他分掌、学年の連携により、保護者の理解と協力体制が作られています。次年度も、それぞれの立場で連携を図っていただきたいと思います。

### 3 教務部

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
☆ 中間自己評価	2.9	2.9	3.0	3.0	3.1
☆ 年度末自己評価	2.9	2.9	2.9	3.1	3.0

#### (1) 分析結果

ア 多少上下しながらも、過去5年の経過からは少しずつ上昇しています。今年一年を見ると、様々な場面における全体での意見は時間割や時数管理等、教育課程の量的マネジメントに集中している状況にありました。

教育課程のマネジメントにおいては、これまでも行っている授業評価や授業公開などをベースとした、学校・教科・個人として授業改善に取り組むなど、質的なマネジメントへの比重を高めていくことが必要だと考えます。

#### イ 生徒自ら学習する態度の育成

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
☆ 中間自己評価		2.8	2.8	2.8	2.8
☆ 年度末自己評価	2.6	2.6	2.6	2.9	2.9

→ 中間評価の際にも記載しましたが、生徒の学力向上を図る上で、生徒の自主的学習態度の育成は欠かせません。進学校として、学力向上に努めている本校において、本項目の評価が数年来低迷していることは、大きな課題と感じます。

一方でこの「生徒自ら学習する態度の育成」の項目の評価については、学校としても、個々においても、授業等の学習指導において、主体的に学ぶような取組を「していない」「できていない」という評価なのか、取組はしているが、そうした態度は「育っていない」という評価なのかを明確にし、改善に向けた方策に取り組んでいく必要があります。

### 4 生徒指導部

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
☆ 中間自己評価	3.1	3.0	3.1	3.2	3.2
☆ 年度末自己評価	3.1	3.0	3.2	3.1	3.2

#### (1) 分析結果

ア 「健康安全に対する意識の高揚」の項目を除き、昨年度以上の評価となっています。新規の「いじめ」に係る項目についても、年度当初から「学校はいじめは許さない」という姿勢を生徒達に伝え、生徒指導部を中心に学年、学校全体で一貫性のある指導を行ってきた成果が出ています。

一方で、SNSに関するトラブルは年々増える状況があり、3.1の評価にはなっていますが、「社会規範の遵守と自らの言動に責任を持てる生徒の育成」については、今後より注力するの必要を感じます。

#### イ 多様化する生徒に対応できる教育相談の充実

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
☆ 中間自己評価	3.0	3.1	3.3	3.3	3.3
☆ 年度末自己評価	2.8	3.3	3.4	3.2	3.2

- 今年度は、精神的な要因により、不登校傾向や別室登校を続けた生徒が多くいました。後期になり、登校できるようになった生徒もあり、支援委員会、学年、担任の生徒に寄り添った対応による成果と感じます。
- これは本校だけに見られる事象ではなく、空知管内高校では、こうした不登校状況にある生徒が今年は昨年度の2倍以上（11月調査現在215名）となっているという調査結果があります。また、中学校でもこの傾向は同様であり、その数はさらに深刻です（11月調査現在332名）。
- 来年度以降も、様々な生徒への対応が求められることとなりますが、校内・校外の連携体制の構築に努めながら進めていきましょう。

## 5 進路指導部

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
☆ 中間自己評価	3.1	3.0	3.2	3.2	3.2
☆ 年度末自己評価	3.2	3.2	3.1	3.4	3.2

### (1) 分析結果

- ア 進路指導については、各項目高い評価となっています。模擬試験や講習の実施による生徒の学力向上は、進路と学年・各教科の連携のもと、成果を上げているという評価と考えられます。
- イ 今年度から評価項目を、部内の業務遂行の評価ではなく、本校の進路指導の取組を評価する項目に変更しています。実際に面談等については、分掌よりも各担任の先生方の業務となりますが、分掌がその面談にどう関わるのかや、面談の他に生徒の進路意識や保護者の理解・協力を得る方法等について、具体化することも必要だと考えます。
- また、喫緊としては、新テストの対応が必要であり、新たな仕組みに関する校内研修の実施や情報提供等についても進路指導部が中心となって行っていく必要があります。

## 6 SSH・理数科部

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
☆ 中間自己評価	3.0	2.9	2.9	3.0	3.0
☆ 年度末自己評価	3.0	2.9	2.8	3.2	3.0

### (1) 分析結果

- ア 中間評価に比べ、若干数値が下がったものの、平均すると、3.0を超える項目が増えています。中でも、「小中学校や地域の方々への理解促進」については、後期の評価が上がりました。
- イ 保護者や地域に向けた情宣活動

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
☆ 中間自己評価	3.2	3.0	3.0	3.2	3.1
☆ 年度末自己評価	3.1	3.0	2.8	3.2	3.0

- アの一方で、そのための「情宣活動の活性化」については、昨年度の類似項目と比べ0.2ポイント下がっています。
- 新聞等の取材に頼ることが多くなっていますが、あらためてHP等での広報も活性化

させ、一層地域の理解促進につなげていくことが必要です。

中学生・保護者が高校選びをする際にHPを活用している実態もありますので、効果を広げる可能性をもっています。他分掌においてもHPの活用については推進をお願いしたいと思います。

#### ウ 8つの力の変容

→ II期申請をするにあたり、生徒・教職員間において、この力を意識化することの重要性が確認されました。

学校教育目標をもとにしたこの8つの力について、あらためて、どのような場面で、といった方法で、目標をどこに定めて、身につけていくか（生徒）・育成するか（教師）を明確化していくことが次年度以降の課題と言えます。

### 【 個人から出された意見・要望等 】

※教員、一人ひとりの声を大切に検討、さらに具体的な改善へつなげましょう

項目	記述による意見等	主に関連する担当
教育計画 組織運営	学校全体としての方向付けが曖昧で、意思統一や情報共有が不十分と感じる場面がある。各学年、分掌、教科でばらばらな動きをしていて、全体としての統一ができていないのではないのでしょうか。	各分掌 管理職
教育計画 組織運営	P D C A がうまく回っておらず、学年独自の取組が多すぎて、何が滝高としての取組かわからない。	
教育計画 組織運営	物事を進める上で、優先順位も最終目的も曖昧なまま、様々なことが進められている印象を受けてしまう。生徒と係わることで、もっと増えるような職場環境を考えていかなければならないと思う。	
教育計画 組織運営	長期的展望が、行き当たりばったりになってしまっていないか。S S H ・単位制のことも含め大丈夫だろうか。	管理職
教育計画 組織運営	教員の体調管理について現状認識をしっかりとしてほしい。体調不良や健康を害して入院・欠勤する教員が複数存在していることは単なる個人の問題ではない。	
服務	定時退勤日の設定など、働き方について考慮していく必要がある。	

服務	振休を変更できないのは、おかしい。休暇を失ってしまう。休暇の確保を図る努力を管理職に求める。	
教育計画 組織運営	副校長・教頭の仕事量が多く忙しいように見える。職員室内にも疲労感があるのに、「次は単位制かよ」と思ってしまいます。	
教育計画 組織運営	滝川高校として、いろいろな看板を掲げすぎている。SSHに対応できる力のある生徒は少ない。システムが生徒の力に合っていない。身の丈に見合うことをやるべき。	
学校評価	この評価が学校改善につながるとは思えない。	
授業改善	「総合探究」の授業展開計画については、再検討を要する。	
授業改善	1年の「総合探究」の授業に苦勞した。計画が遅れ、当日に実施内容が出てくることも多く、評価についても、教員だけでなく、生徒にしっかり説明できない状況に危機感を感じた。	SSH
教育課程	45分授業はただ負担が増加しているだけ。生徒の力を向上させるシステムとは言いがたい。	教育課程委員会 教務
教務	真の進学校を目指すとは言っているものの、具体的に何をすべきなのか、教務で検討し、明確にするべき。45分7hをクリアするだけでいっぱいになっていて、肝心な中身についてまで目が向けられていない気がする。	
教務	来年度は、一部の先生方や教科に偏らないよう、時間割の組み方（入れ方）をホワイトの時間の入れ方を含めて検討してほしい。	教務
教育課程 進路指導	進学校と言うことで、授業時数や授業日数を多く作りたいという考えはわかるが、45分7時間、土曜活用、模試、講習などで、生徒や先生方が疲弊していると感じる。勉強量を増やすだけではなく、学習効率が上がるような取組を行ったり、進路指導につながる生活・学習指導の計画化を行うなど図っていくべきだと思う。昔ながらの進学校ではなく、これからの進学校を目指すべき。	教育課程委員会 教務 進路
進路指導	進路指導部が掲げている2・4の項目は分掌の指導のもとに全学年が共通意識を持って進めているものでない。	
SSH	SSHの推進は、学校の経営戦略の主軸として位置づけられるもので、管理職の強力なリーダーシップが求められるものだと考える。	管理職 SSH
その他 教育環境	ICT機器を利用する先生が増えているので、プロジェクターなど、さらに購入をお願いしたい。	事務